

一般社団法人 実践教育訓練学会

The Society for Practical Technology Education

第6回 建築設計競技 作品集

2023年8月18日



主催 一般社団法人 実践教育訓練学会

協賛 アイディホーム株式会社 (〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-46-25)
(五十音順) 株式会社 インフォマティクス (〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー27階)
株式会社 総合資格 (〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階)
株式会社 ティーエスケー (〒261-8501 千葉県美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンB棟6階)
日本住宅株式会社 (〒100-6317 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング17階)
株式会社 松下産業 (〒113-0033 東京都文京区本郷1-34-4)
メガソフト株式会社 (〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル11階)

テーマ 「地域に根ざす家」

日本の気候は四季が明瞭で、昔から各地域では豊かな風土に根ざした風習が根付いていた。そこでは、地域固有の祭りや、習わしが育まれてきた。しかし戦後、経済の発展とともに都市部への労働者移転があり、地方に永住する若者の減少が今も続いている。それは、地方に限ったことではなく、ニュータウンと呼ばれている都市部周辺の新しい街でも高齢化が進み、空き家が増加している。その原因として、ニュータウンにおいて短期間の間に多くの同年代の家族が移り住んだ結果、年月の経過と共に高齢化したことによる。さらに追い打ちをかけるように、少子化や核家族により親と同居することの減少、生まれた家から就職先に通えないなど、家を引き継ぐ後取りがないことが大きな要因となっている。その結果、豊かな地域の景観や風習が損なわれ、コミュニティも希薄になることで、住人同士の絆がなくなってきている。このままでは、地方の人口が減少して過疎化が進み、都市部だけが拡大してゆく傾向を止めることができないまま未来へと進んでゆくことになる。

これらの問題に歯止めをかけるためには、地域の資源の見直しや発掘が必要である。地方には、まだまだ魅力ある資源が眠っているはずである。普段の生活の中でその良さや価値に気がつかず通り過ぎていくことも多いのではないだろうか。京都や倉敷、金沢などでは、長年引き継がれてきた景観や建物、風習を重要伝統的建築保存群として守ってきた結果、大きな観光資産になっている。その結果、代々働く場所も創出しており移り住みたいという人々も多い。また、小樽の運河に沿った倉庫や横浜港の赤煉瓦倉庫街もコンバージョンすることによってとても魅力ある建物に変化し、多くの観光客を集め賑わっている。その他にも長野県小布施町や埼玉県川越の小江戸、秋田県角館市の小京都もいくつかの建物から修景計画を始め、とても綺麗な街並みとなっている。有名にはなっていないが、さまざまな資源が全国各地の身近なところに潜在的にあるはずである。このような資源を掘り起こし、これからの未来に向けて地域に根ざす家を提案してほしい。

(審査委員長：和田 浩一)

「審査講評」

第6回実践教育訓練学会・建築設計競技のテーマを「地域に根ざす家」とした。近年、豊かな地域の景観や風習が損なわれ、コミュニティも希薄になることで、住人同士の絆がなくなってきている。その結果、地方の人口が減少して過疎化が進み、都市部だけが拡大してゆく傾向が続いていることの危機感よりテーマを設定した。その結果、日本全国の一般大学、職業能力開発関係施設で学ぶ学生・受講生、高校生よりエントリーが55件あり、作品の提出は50件であった。2023年7月中旬に11名の審査委員によりオンラインでの作品審査を行い、1等1作品、2等7作品を選出した。

設計対象敷地を見ると、生まれ育った地域を対象としている作品が多いのが特徴的だった。それは、学業のために一時的に居住している街では、地域に根差すことを肌感覚で掴みにくく、生まれ育った街でしか捉えられない歴史や風土、脈々と続いている伝統や作法を感じ取ろうとしていた結果だと考えられる。この設計課題をとおして、生まれ育った街を懐かしく思い、その良さを再発見できなのではないだろうか。

1等となった作品は、地域の表通りと裏路地に着目し、「地域に住まない人にとって路地は裏」であり、「地域に住む人にとって路地は表」であるとして裏路地の良さを利用して設計に取り組んだ。人の内面に潜んでいる地域に対する障壁を4つのタイプに分け、空間のつながりやファサードを緩やかに優しく構成し、建物のみならず地域のコミュニティを形成しようとしているところが大変魅力的で審査員に最も評価された作品になった。

2等になった①「縁結びの種まき」は出雲の縁結びから人のつながりの種とし、②「かばたのある古民家」は琵琶湖西岸の昔からある井戸を中心としたコミュニティの形成、③「繋ぐバトン」は沖縄糸満市の店舗併用住宅による五感の継承、④「七日町商店街の再生」は山形市七日町にある御殿堰にシェアハウスをつくることによる地域の活性化、⑤「現代の寺子屋」は秋田市旭北寺町に現代の寺子屋つって子供の地域教育を通じた継承、⑥「知り継ぎ、伝え継ぐ」は本を通じた地域の情報交流拠点をつくることによるコミュニティの活性化、⑦「「み」のある所」はりんご農家の継承を通じた地域の活性化など、入賞した8つの作品には、地域に根差すために「人を通じてつなぐ」ことと「活性化する」ことが欠かせないという共通認識だったようである。

上位の作品を見ると、「故郷自然の豊かさ」「食文化」「伝統文化」「地域特有の自然素材」「シェアハウス」「店舗付き住宅」「地域のコミュニティの場」などが取り上げられていた。提出された作品全体的に地域の良さを発掘した作品が多く寄せられた。

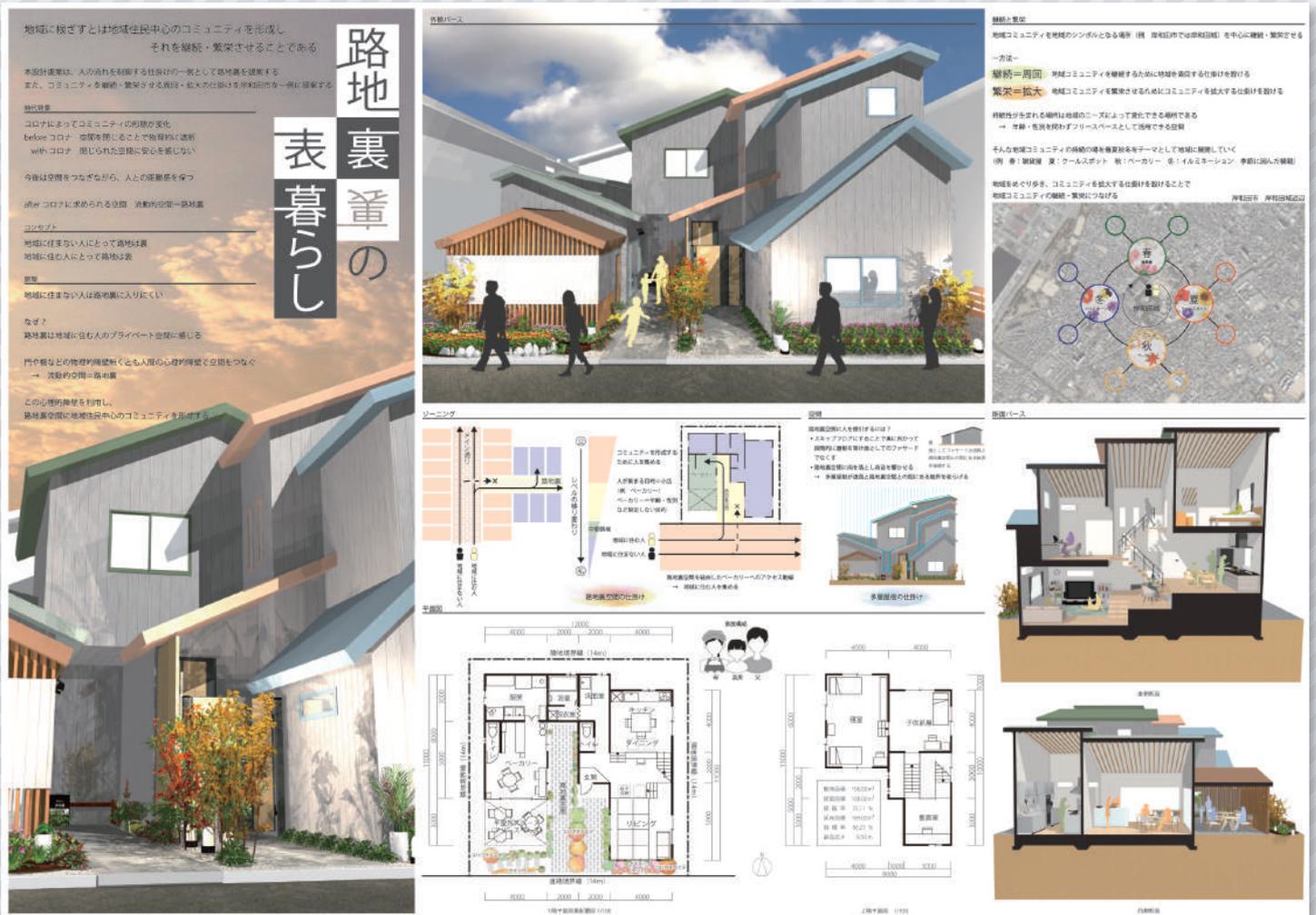
(審査委員長：和田 浩一)

審査委員長	和田 浩一	職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授
審査委員	安島 才雄	株式会社 総合資格 常務執行役員
(五十音順)	飯嶋 元広	アイディホーム株式会社 設計部副部長
	磯野 重浩	熊本職業能力開発促進センター
	井町 良明	メガソフト株式会社 代表取締役社長
	江川 嘉幸	山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科 教授
	川口 智也	株式会社 インフォマティクス リーダー
	高橋 紀子	日本住宅株式会社 人事本部 常務執行役員 副本部長
	竹内 一	株式会社 ティーエスケー 代表取締役
	星野 政博	東北職業能力開発大学校 住居環境科 特任教授
	松下 和正	株式会社 松下産業 代表取締役社長

1等 実践教育建築デザイン賞

路地裏の表暮らし

近畿職業能力開発大学校 菊岡 樹・金城 実佑



【講評】

1等となった作品は、地域に根ざすことを「路地裏の表暮らし」として設計した。地域に住まない人は路地裏に入りにくい心理的な障壁を利用し、「地域に住まない人にとって路地裏は裏」であり、「地域に住む人にとって路地裏は表」であるとして路地裏空間に地域住民中心のコミュニティを形成することを提案している。そしてベーカリーをモデルとして路地裏空間をパブリックからプライベートまでの4段階に分け、段階的な居場所をつくった。

その居場所に呼応するようにパブリックとプライベート空間共にスキップフロアになっており、さらに

屋根の重なりも心地良い。住宅のプランのみならず、建物のファサードでも心理的な障壁を取り除いている。さらに、雨が降った時の雨音までも設計に取り込んでいるのである。

本設計は、建物のみならず外部空間においても人の心理における障壁を利用したり取り除いたりすることにより空間の質を制御しながら構成している巧みさがある。また、ファサードも地域に根ざす優しさがあり、この仕組みが拡大することによる持続的な地域のコミュニティの形成に役立つことも期待できる。これらのことから本設計が多くの審査員に最も高く評価された。

2等 総合資格学院賞

「み」のある所 ～りんご農家を訪ねて～

職業能力開発総合大学校 太田 拓巳

【講評】「地域に根ざす家」を「農家民泊型住居」という形で強いインパクトで表現しており、合理的かつ魅力的な作品である。弘前りんご公園の施設や機能を理解した上で、そこで体験できない「農家の日常」を「身」「味」「見」「実」から表現してある。また雪室の活用はエネルギー問題にも対応しており、このような住居が「地域の資源の見直し・発掘」につながることも期待できる。弘前の四季の豊かさを体験することも魅力である。居住者と宿泊客のプライベートが無いように思われるところも「一緒に泊まり過ごす」という観点からすると良さでもある。このように直感的に行きたくなるような「わくわく感」のある作品であることが高く評価された。



2等 株式会社ティーエスケー賞

七日町商店街の再生 ～御殿堰と共に生きる～

東北文化学園大学 岸 拓末

【講評】山形県七日町の商店街を舞台とし、老舗百貨店の閉店やシャッター街になりつつある現状に対し、地域おこし協力隊の制度を利用し、行政と町民を巻き込んで地域活性化を目指そうとした計画で、地域社会に貢献しようとする気持ちがあふれる作品である。人と人のコミュニケーション、コミュニティの形成、家族の絆、地域連携というキーワードを集合住宅の中に盛り込むことで、子供たちの明るい未来が描ける。御殿堰にまつわる水の利用により、明るさや清潔さ、また涼し気でマイナスイオンも感じられ、健康的な集合住宅として地域のステータスシンボルにもなりうる。このように各コンセプトが明解に解りやすく提案されていることが高く評価された。



2等 日本住宅株式会社賞

現代の寺子屋 ～ともに学ぶ楽しさを子どもたちに！～

東北文化学園大学 齋藤 鈴音

【講評】 秋田県の「豊かな人間性を育む教育」を目標に掲げた、全国屈指の学力を誇る地域性に着目し、「家庭学習」を通じ地域の子供たちに共に学ぶ楽しさを支援する住宅の提案である。1階は低学年、2階は高学年向けとすることで、階段を上がっていくにつれ子供たちの学習意欲が誘発される。テーマに沿い、バルコニーを設け室内から自然を感じられる造りや、3階に寺子屋を設置することで「まちのみんなが先生で、まち全体が校舎」という理念の通り、地域の人々と子供たちがコミュニティを形成し、勉強だけでなく、様々な物事や生活を身につけるための工夫がとられている。これからの地域に根差した新たな教育システムの提案作品として高く評価された。



2等 株式会社松下産業賞

知り継ぎ、伝え継ぐ ～本を通じた地域の情報交流拠点～

職業能力開発総合大学校 中川 直人

【講評】 本を通して地域の情報交流の拠点とすることを意図した住宅の提案である。地域に根差すというテーマに対し、図書館+小説家の家としたコンセプトが建物形状に表れている。書架機能とすぐにわかる部分と住居部分が無理なく配置され、角度を振った部分からのアプローチ、レベル差による空間の分節もよく考えられて計画されている。建物と周辺との関係も、前面道路だけでなく周辺部まで考慮されている。都会の住宅地において、作家の生活と創作活動の場としての住宅を、地域に開放しワークを通して情報交流を図ることが地域に根ざすことに繋がることになるという斬新な発想のもと、各空間が細かく計画されていることが高く評価された。



2等 メガソフト株式会社賞

かばたのある古民家

滋賀職業能力開発短期大学校 替地 楓子・仲井 陽菜



【講評】 計画地を琵琶湖の西岸の湧水が豊富で家屋まで引き込み「川端（かばた）」として利用している地域に設定し、その地に移住を考えている家族が、新しい価値観によるやわらかい結びつきで地域交流できる住宅の提案である。「つながり」「古民家再生」「土地の独自性」をうまくつなげている。「かばた」を取り入れた生活が、楽しそうなのも良い。地域集落の景観保全のため、古民家を移築、再生する提案をCGと模型両面でよく表現している。高いレベルで「地域に根ざす家」としてまとめ、これをわかりやすく提案していることが高く評価された。

上位作品

わたしと生きる家

近畿職業能力開発大学校 遠藤 久流美



One_of_a_kind_town

沖縄職業能力開発大学校 田仲 修人



上位作品

悠々閑閑

沖縄職業能力開発大学校 嘉陽 芽衣



小さなコミュニティー ～地域とともに生きる～

沖縄職業能力開発大学校 源河 帆南美



あいっばせ！ ～地域を広げるシェアハウス～

東北文化学園大学 遠藤 美心



東京のふるさと

職業能力開発総合大学校 寺地 成連



癒笑庵

東北職業能力開発大学校 渡邊 葵香

